

（鯖街道熊川宿 説明看板：御蔵屋敷跡）

小浜藩の米蔵の跡地

現在、松木神社が建っている土地にはかつて、小浜藩の役人が徴収した税を保存するために使われた 12 の米蔵がありました。江戸時代（1603 年～1867 年）には、さまざまな税金が、お金ではなく米や大豆などの食材で支払われていました。歴史的な記録によると、ある時には、小浜藩は 61 の村から約 3 万俵の米を集め、熊川宿という宿場町に運びました。米は一時的にその蔵に保管され、近くに配置された 2 人の奉行によって管理されていました。

熊川宿経由での京都への米の輸送

税の季節の間、藩中の村から来た米の俵が若狭街道という道と北川を經由して熊川宿に送られました。舟が到着すると、貨物は奉行所に運ばれ、集計され、藩の蔵に置かれました。その後、米は馬で近江国（現在の滋賀県）の高島に運ばれ、そこで船に積み込まれ、琵琶湖を越えて大津に運ばれました。そこから、その税は京都の首都に届けられました。

蔵の取り壊しと松木神社の創建

1871 年に明治政府によって藩制が廃止され都道府県制に置き換えられた時、小浜藩の蔵と奉行所は取り壊されました。いくつかの蔵は、移動され民家として使用された可能性がありますが、元の場所には何も残っていません。1933 年、この土地には、村の指導者だった松木庄左衛門（1625 年～1652 年）を祀る松木神社が設立されました。松木は重い税を課された農民たちの代表と主張し、下層階級の人々が政府に直接請願することを禁じた法律に違反したとして処刑された。ついには税が引き下げられ、村人の負担は軽減され、松木は自身が犠牲となったことで地元の英雄になりました。